

陽の里

発行 平成22年1月1日



社会福祉法人 新生会
総合センター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県福井郡油町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545㈹
URL <http://www.shinsei-kai.or.jp/>

No.105

テーマ 日常生活の中のリハビリにとりくむ生活療法士たち



撮影提供 第49次南極自然観察隊 兼職員 石原 淳氏

私の夢

作業療法士 田中拓郎

サンビレッジ国際医療福祉専門学校在学中、最後の実習地である北海道の病院で地域で活躍する作業療法士に出会いました。

そこでは障害や高齢により生活に制限が生じても、在宅での生活が継続できる様、作業療法士が在宅に訪問し、必要な福祉用具の調整や、自宅の環境調整等、在宅で暮らし続けることにこだわり、専門性をフルに生かし関わっていたのです。

この出会いは、私の理想の作業療法士像として残り、同時に学校の母体であるサンビレッジ新生苑の理念と重なるものを感じ、当施設に就職しました。

就職後の私は、「機能面の回復訓練だけではなく、その人らしい生き方を回復すること」このような思いでヘルパーとして利用者により近いところで生活を支える援助をさせて頂いています。介護現場で得た気付きから、「生活の中にもっと多くの福祉用具が使われれば、利用者の安全や安楽が守られ、生活もひろがるのではないか」とそんな思いから企画、提案したサンビレッジ福祉機器展が先日開催されました。初めての試みでありましたが、参加者の活発な意見交換の場となりました。

今後はもっと多くの方に福祉用具を知つていただき、高齢者や障害をもつた方のQOLの維持向上につながるよう、地域の方々も巻き込んだ福祉機器展を開催できればと夢は大きく膨らんでいます。

言葉のハンディを乗り越えて シティタワー岐阜での取り組みについて

言語聴覚士 倉 知 雅 史



▶ 言語聴覚士と福祉職員

サンビレッジ岐阜では、開設当初から脳梗塞や脳血栓などにより、コミュニケーション障害、嚥下障害になられた方への言語聴覚士の訪問看護や、言葉にハンディのある方が利用できるデイサービスの取り組みを行っています。言葉にハンディのある方が利用しやすい福祉施設は、岐阜

県ではまだ数が少ないのが現状です。現在は火曜と土曜日に「ことばのデイサービス」として、言語聴覚士を配置し、失語症など、言葉にハンディのある方に利用していただいています。言葉が話しくい、聞きにくくいう理由から、コミュニケーションをとること自体が、消極的になり、家に閉じこもり気味になる方がいらっしゃいます。そこで、まずそのような方どうしが仲間となり、過ごしやすい場所をつくるとともに、集団訓練を通じてリハビリをし、コミュニケーションに自信を付け、生活の場が拡がっていくれば、と考えています。

現在利用されている方の中には言葉がうまく出ない為に、当初は自宅から出たくない気持ちが強く、どこへ通っても表

情が浮えませんでした。しかし、シティタワーデイサービスセンターをご利用になり、同じ思いの方同志一緒に「ことばのデイサービス」を行っています。

またデイサービスとは別に、も生き生きとし言葉も以前よりもリスム一ズになったと感じておられます。

3階「ふれあいの会」では、サンビレッジの専門学校の言語聴覚士講師を中心に、岐阜市にある失語症友の会「れんげ会」の集会を月一度、行っています。

同会では、ご本人や家族同志が思いを共有するとともに、季節行事や言語聴覚士学生との交流を通じて、仲間作りや社会交流につなげています。

サンビレッジ岐阜では、ことばのハンディで悩んでおられる方々が、それを乗り越え心も体も元気になられ、いきいきとした生活が拡がっていくように他職種と連携をとりながら自立支援を目的に取り組んでいます。

どうぞ一度遊びに来て下さい。

旦那さんや子供たちが喜ぶ様なおかげで、貴女も今では二人の子持

**飛ばそう
あなたに
あつたかメール**



HOT

利用者・家族・スタッフ、そして地域の皆様へ

おせち料理

タル・ブーラームをはじめ
工藤瑞穂

【母より】

「睦ちゃん、お元気ですか？今年も残り少なくなりました。が、来年のお正月のおせち料理を考えなくてはならない時期になりましたね。お正月料理と云えば、第一弾は、

甘じて美味しい栗さんどんですね。お母さんが、お台所に入つて、きちんと用意をはじめると、貴女お姉ちゃんが、きちんとが出来はじめるのが待ちどおしくて、さつまいもとお砂糖を混ぜていましたね。おいもをつぶしはじめるところにはつぶしたお芋をお砂糖と一緒に練つて練つてお芋の形をなくす様に、お芋をつぶし、お芋に照りが出て来て、きちんと形になつて来たら小皿に少しお芋をのせてお味見をするのをにこにこしてみつめおりました。

サンビレッジ専門学校が誇ること 現場を活用した“実践教育”

サンビレッジ国際医療福祉専門学校
作業療法学科教員 篠田良則

今年も授業の一環として作業療法学科の学生が「ふれあいタイム」でサンビレッジ新生苑を訪問しています。例年ですと、初めての実習に向け少しでも現場の雰囲気慣れることを目的としていましたが、より実践的な視点と行動力を養うことを目的に、ふれあいタイムの授業の枠組みを見直しました。そこで可能な限り作業療法に関わる様々な業務を体験しようと、教員と現場を展開することになりました。

一般の実習施設と異なり、このサンビレッジ新生苑では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士などのリハビリテーション部門を生活療法部門と位置づけ、生活障害を



▶「ふれあいタイム」での利用者と学生

これまで2年次には体験出来なかつたペットサイド訓練や機能訓練、作業指導や集団リ

急増し、かつての養成校が少なかった時代とは様相が一変しました。学生がこの学校で「何を学び、社会に飛び立つときに行ができるのか」が問われる時代です。

本校は社会福祉現場に直結した教育機関であり、「生きた知識」を習得できることが最大の魅力です。今後も学校スタッフ一丸となり文化や社会生活の中における「実践教育」の充実に力を注いでいきたいと

持つ人の社会的自立、生活的自立などをサポートする黒子法士の仕事が見えやすくなっています。

これまで2年次には体験出来なかつたペットサイド訓練や機能訓練、作業指導や集団リ

急増し、かつての養成校が少なかった時代とは様相が一変しました。学生がこの学校で「何を学び、社会に飛び立つときに行ができるのか」が問われる時代です。

近年、リハビリ系の学校が

病気のこと、障害のことなど対象者を「人として理解する」ことや、多職種間の「専門的な役割の理解」など介護現場から得られた成果はなかなかのものです。

ハビリテーションなど実践場面に触れることで、学生達の取り組む姿勢も真剣そのものであります。教科書や学校内の実習だけではなく腹に落ちない内容、なかでも老人のこと、

せち料理を作つて下さい。お正月には、貴女達も時間があつたらお顔をみて下さいね。せち料理を作つて下さい。お正月には、貴女達も時間があつたらお

お手紙拝見ました。
年末になると家全体にひろがる、おせち料理の煮物の匂いと、とりわけ棒だらを下すするときの匂いです。私自身が結婚して、料理本をみながら初めておせち料理をつくっていたところ、この棒だらを下すでしていたときには、この匂いに実家の年末の匂いを思い起すことができました。さつまいもでつくるきんとんは大好きで、もつばら鍋のはしについているきんとんを、台所についてはつまみいしておせち料理も、きんとんだけは毎年作っています。

これからも、本もれびの方々が仲よく、お互いを思いやりあって穏やかに過ごしていかれることを、切に願っています。

陸美



【お母さんへ】

毎年恒例のおせち料理つくり

トピックス

満員御礼！熱想舞人登場



11月28日、サンビレッジ新生苑に「太平洋工業よさこいチーム・熱想舞人（ねつそうぶじん）」が躍りと登場！冬の寒さを吹き飛ばす、若くて熱い、雄大かつ華麗な舞いに皆が圧倒されました。

数分後、ホールの体感温度はぐんぐんと上昇し…気がつくと苑のお年寄りも共に振り付けを行い、一体となってよさこい踊りを楽しめました。

南極自然観測越冬隊記念講演 開催！



11月21日、サンビレッジ新生苑に、第49次南極自然観測越冬隊の石巻淳さんが来苑されました。当日は苑のお年寄り以外にも地域の子供たちも集まり、南極の気候や動物の様子を貴重な映像と共に楽しみました。そして講演の目玉である南極の氷の登場にびっくり！「大きくて綺麗！」、「どんな味なの？」と皆で驚きながらも感動し、誰かが南極の地に想いをはせました。

恒例！餅つき開催



サンビレッジ福祉機器展 開催！



今年もサンビレッジ恒例の餅つきが開催され、苑のお年寄りから若い職員や学生へ、そして地域の子供たちへと、世代を超えて杵のバトンを引き継ぎながら、日本の伝統文化を皆で楽しみました。

お年寄りにお餅を安心して食べて頂くために、職員一同は毎年の救急訓練や見守りも欠かしません。

来年も良い年でありますように…。餅つきには皆の新年への想いが込められています。



11月4日、サンビレッジ新生苑で「福祉機器の選び方や効果的な使い方の共有」をテーマに、職員や学生を対象としたサンビレッジ福祉機器展が開催されました。福祉機器は障がいを持って生活する方々にとって身体の一部となる大切なものです。当日は50点以上の最新機器が展示され、サンビレッジの生活療法科の職員等による実演を交えながらの体験会が行われました。又安楽なだけではなく、使用する方々の自立支援に繋がるようなど、業者のアドバイザーも巻き込んだ活発な意見交換も行われました。

今後は、利用者やご家族、地域の方々も対象とした第2弾も計画中です。その際はぜひご参加下さい。